

## ゆあちゃんありがとう

石井 悠人

「ゆうとくん、行ってくうね。」

妹のゆあちゃんは、ニコニコでいつもより大きなにもつを持って出かけていった。

今日は、保育園の「おとまり保育」の日。はじめて、家族とはなれて一人でとまるのだ。

ゆあちゃんは、六才だけと少ししよがいがあるのです、うまく話せないし、手伝ってもらわないと自分の事もうまく出来ない。ほくの事は、みんなのまねして「ゆうとくん」とよぶ。お母さんが、「お兄ちゃんでしょ。」と教えても「ゆうとくんたい。」という。

お母さんは朝、妹を送っていった後、「夜、さみしくてなかなかいかな。」おふろはちゃんと入れるかな。」と心配している。

ほくも少しは「大じょうぶかな」と思ったけど、いつもつくえの中をぐじゃぐじゃにされたり、何度も同じ事をきいてきいていやになる事がある妹がいらないと思ったら、「今夜はじやまされずに、すきな本をゆつくり読めるぞ」「お母さんを一人じめできるぞ」とちよつとウキウキもした。

夕ごはんの時、いつもは妹が「おやつ、スイカやた。おいちかた。」とか「プールちゃぼんちかおつけけた。」とか保育園での事を一生けん命話す。ほくも「きゆう食一番に食べておかわりした。」「プールで二十五メートル泳いだ。」とか負けないくらい話す。

お母さんは、ほくたちの話を聞いて、わらったり「がんばったね。」とほめてくれたり、しゃべりすぎると「もう！早く食べなさい！」とちよつと声がかくくなったりとにぎやかだ。でも、今日はゆあちゃんの話が聞けないし、いすだけがぼつんとあつてさみしい。

おふろの時、「ボタンとてー。」と言つてきて、とつてあげると「あーがと。」とかわいく言うゆあちゃんがいない。

上がる時も、ゆあちゃんの十まで数える声がないので、なんかつまらない。

はをみがく時、思わずくせで、ゆあちゃんの前髪にまではみがきこをつけてしまった。

ゆあちゃんは、手伝ってもらったら、かならずニコニコで「あーがと。」と言う。

ほくは、そのニコニコ顔が大すきだ。

ほくまでつられてニコニコになつてしまう。

今まではゆあちゃんから元気をもらつていたんだな。

今夜はしすかだな。

早く明日にならないかな。  
帰つて来たら、ゆあちゃんがすきな「だっこして世界一しゅう」をしてあげるからね。  
ゆあちゃん、ほくの妹でいてくれてありがとう。  
大すきだよ。